



令和元年度
地域コーディネーター養成講座
ぎのわん地域づくり塾 2019

報告書

令和2年3月

目次

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要	1
(1) ぎのわん地域づくり塾とは	
(2) プログラムの流れ (全7回)	
(3) 第4期塾生の概要	
<塾生の声>	
(4) モデル地区：嘉数区の現況	
<主催者からみた地域づくり塾>	
塾長 松川 正則 (宜野湾市 市長)	
知念 春美 (宜野湾市教育委員会 教育長)	
多和田 眞光 (宜野湾市社会福祉協議会 会長)	
第2章 ぎのわん地域づくり塾の講座内容	11
(1) 第1回 足元の資源を生かした「地域経営」 ～浦添市港川自治会の取り組みに学ぶ～	
(2) 第2回 地域づくり実践の現場から学ぶ ～嘉数区の地域課題と実践を知る～	
(3) 第3回 フィールドワーク ～まちあるき～	
(4) 第4回 スキルアップ講座 「企画」の立て方とファシリテーション	
(5) 第5回 フィールドワーク ～地域インタビューと他地域の実践から学ぶ～	
(6) 第6回 企画づくりと「中間発表」	
(7) 第7回 最終発表および修了式	
<企画発表に対する嘉数区住民のコメント>	
<アドバイザーからみた地域づくり塾>	
櫻井 常矢 教授 (高崎経済大学 地域政策学部)	
第3章 嘉数区の困りごとに応じた企画提案	21
(1) 嘉数高台公園の活用 (チーム名：嘉数高台公園を建て直す隊)	
(2) 子どもの居場所をつくろう！！ (チーム名：わらば～見守り隊)	
(3) ジュニア・エイサー隊結成 (チーム名：E～ね！かかずっ子！)	
(4) E-スポーツを通した嘉数公民館のサロン化 (チーム名：嘉数E-スポーツ普及会)	
(5) 嘉数高台公園の活用と平和の語り部の継承 (チーム名：ねだて)	
<モデル地区の自治会長からみた地域づくり塾>	
伊波 稔 会長 (嘉数区自治会)	
<講師からみた地域づくり塾>	
宮道 喜一 氏 (まちなか研究所わくわく 事務局長)	

第4章 塾生アンケートまとめ	33
(1) アンケート概要	
(2) 各設問項目の結果	
第5章 総括 ～第4期の評価と今後に向けて～	41
(1) ふりかえりミーティング開催概要とまとめ	
(2) 塾生アンケートに記載にされていた要望一覧	
(3) 次年度に向けての塾プログラム改善ポイントの提案	

資料編

資料1	ぎのわん地域づくり塾 2019 公開講座・募集要項チラシ
資料2	令和元年度ぎのわん地域づくり塾申込書
資料3	2019 カリキュラム（ぎのわん地域づくり塾）
資料4	塾生各チームの企画提案書
資料5	ニュースレター＜vol.1～7＞
資料6	塾生アンケート結果
資料7	市報ぎのわん令和元年6月号
資料8	最終発表案内チラシ
資料9	市報ぎのわん令和2年2月号
資料10	配布資料



第 1 章

ぎのわん地域づくり塾

概要

第1章 ぎのわん地域づくり塾概要

(1) ぎのわん地域づくり塾とは

これからの宜野湾市においては、様々な分野で「一つの組織、団体では対応できない、複雑化した課題」が増えてくると考えられる。そのため、地域住民と共に地域課題を共有し、互いに得意とすることを持ち寄り、一緒に取り組むことで、複雑化した地域課題を解決する「協働による地域づくり」が求められている。

「協働による地域づくり」をすすめるためには、地域づくりに必要な地域資源を知り、多様な人や力、資源をつなぎ合わせて、「ひとりの困りごと」を「地域の困りごと」として、解決の動きをつくりだす地域コーディネーター（つなぎ役）の存在が重要となる。そのため、宜野湾市では、地域づくり活動を行い、支援するための理解や知識を持った、コーディネーターの力を磨き合う場として「地域コーディネーター養成講座 ぎのわん地域づくり塾」（以下、「ぎのわん地域づくり塾」）を、平成28年度より行っており、今年度第4期を開催した。

【ぎのわん地域づくり塾の目的】

地域づくりのプロセスを大切にし、多様な資源をつなぎ合わせながら、地域課題の解決の動きをつくりだす「地域コーディネーター」を育成すること。

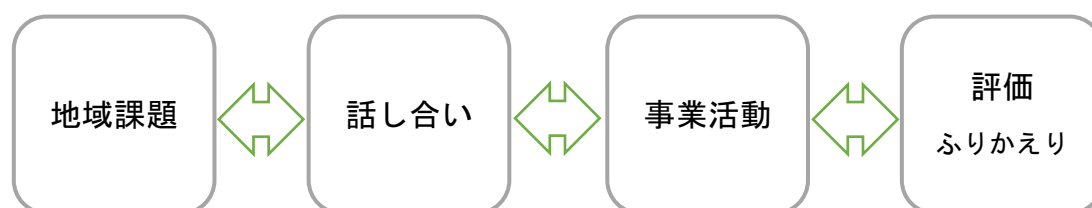


図 地域コーディネーターが住民と行う、地域づくりのプロセス

ぎのわん地域づくり塾では、講義、フィールドワーク、ゼミを通じて、モデル地区（宜野湾市上大謝名）の地域課題をとらえ、解決のための企画提案を行う過程から、地域コーディネーターの育成を行った。



図 地域コーディネーター育成プロセス

(2) プログラムの流れ（全 7 回）

ぎのわん地域づくり塾 2019 は令和 2 年 7 月 6 日の公開講座から始まり、10 月 21 日の修了式までの約 4 ヶ月間に渡って開催した。講座会場は嘉数小学校を拠点として開催し、公開講座と中間発表は宜野湾市中央公民館で行った。第 2 回から第 7 回までの講座には、平均して約 21 名の塾生が継続的に受講した。

表 めのわん地域づくり塾 2019 のプログラム概要

講座	日程	講座名	会場	出席者
第 1 回	7/6 (土) 13:00-17:00	公開講座 足元の資源を生かした「地域経営」 ～浦添市港川自治会の取り組みに学ぶ～ 講 師：櫻井 常矢 氏（高崎経済大学 教授） ゲスト：銘苅 全朗 氏（浦添市港川自治会長） 鹿谷 麻夕 氏（しかたに自然案内代表）	宜野湾市中央 公民館 集会場	73 名
第 2 回	8/3 (土) 9:30-15:30	現場から学ぶ 「モデル地区：嘉数区」の地域課題と実践を知る 情報提供 伊波 稔 氏（嘉数区自治会長） 新垣 真弓 氏 （嘉数小学校 学校地域コーディネーター）	嘉数小学校 地域携室	塾生 24 名
第 3 回	8/17 (土) 9:30-15:30	フィールドワーク～まちあるき～ 講師：宮道 喜一 氏 （まちなか研究所わくわく 事務局長）	嘉数小学校 地域連携室	塾生 27 名
第 4 回	8/28 (水) 18:30-21:00	スキルアップ講座 「企画」の立て方とファシリテーション 講師：宮道 喜一 氏 （まちなか研究所わくわく 事務局長）	沖縄国際大学 3105 室	塾生 22 名 一般 8 名
第 5 回	9/1 (日) 9:30-15:30	フィールドワーク ～地域インタビューと他地域の実践から学ぶ～ 講師：大城 喜江子 氏 （浦添市森の子児童センター） 櫻井 常矢 氏（高崎経済大学 教授）	嘉数小学校 地域連携室	塾生 24 名 一般 14 名
第 6 回	9/29 (日) 9:30-15:30	企画づくりと「中間発表」	宜野湾市中央 公民館 集会場	塾生 14 名
第 7 回	10/5 (土) 9:30-16:00	最終発表および修了式 講師：櫻井 常矢 氏（高崎経済大学 教授） 宮道 喜一 氏（まちなか研究所わくわく）	宜野湾市 社会福祉センター	塾生 19 名 一般 4 名

（３）第４期塾生の概要

１）塾生の所属

第４期塾生として、企画立案チームに所属した塾生は４１名であった。その内、修了した塾生（修了要件：全７回中３回以上の出席）は２８名であった。塾生の所属として最も多かったのは嘉数区自治会の方で、企業、社会福祉協議会、行政、学校職員、市議、公益財団法人等の多様な立場からの参加を得た。また、卒塾生の６０％（２８名のうち１７名）が回答したアンケートから、年代は１０代から８０代までの方が受講し、５０代が４名で最も多く、１０代、３０代、７０代、８０代の１名が最小であった。

表 第４期塾生の所属（修了者）

所属	人数(名)	割合(%)
嘉数区自治会	5	18
学生	4	14
企業	3	11
社会福祉協議会	2	7
行政	2	7
学校職員	2	7
其他自治会	2	7
市議	1	4
自営業	1	4
公益財団法人	1	4
なし	5	18
合計	28	100

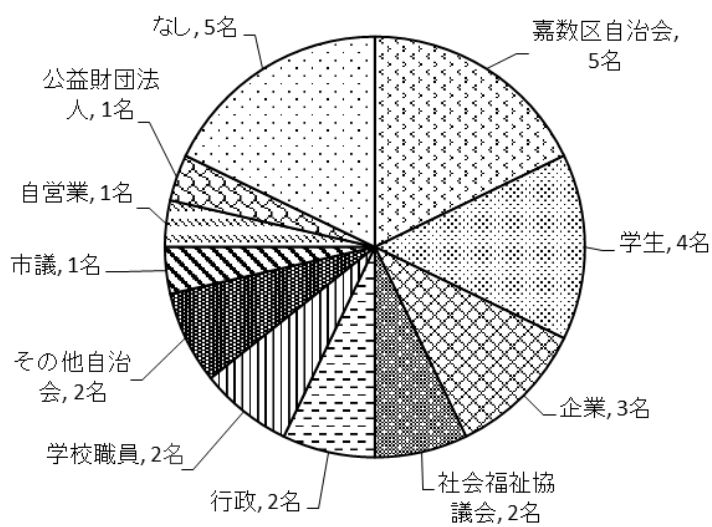


図 第４期塾生の所属（修了者）

(人数)

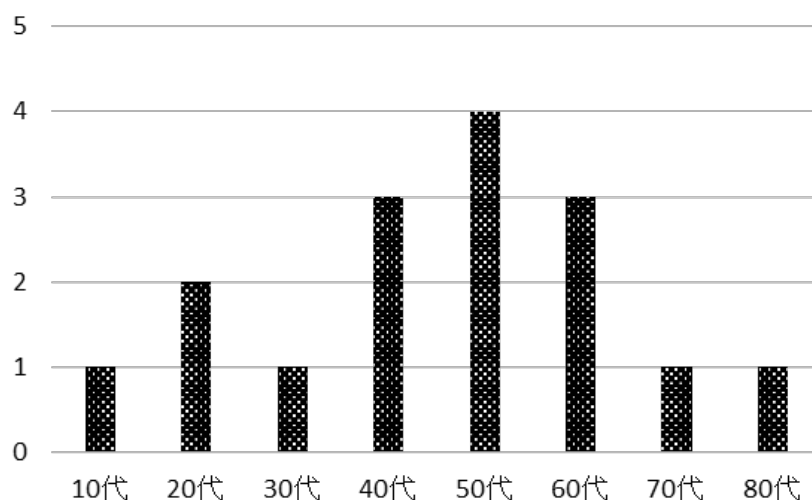


図 第４期塾生の年代分布（アンケート回答の修了生）

＜塾生の声＞

塾生の皆さんには、本塾の修了式後にアンケートをご記入いただいた。その中から本塾での学びや感想を一部以下に記載した（原文のまま記載）。

知念小春さん（20代）FM ぎのわん

幅広い年代の方と、話し合う機会はなかなかないので経験できて良かったです。みんなの意見を否定せず、受け入れ、「それをどのようにするか」をまた話し合うことが大切だし円滑だと思いました。このような地域の活性化のために集まって話し合いをする場に参加することが初めてなので、地域をより良くするため、住民が更に住みやすくなるために皆で考える場があることがすごいと思いました。他人事ではなく、自分の住んでいる地域に関心をもとうと思いました。

私の住んでいない地域を客観的に見て、どう改善していくか、1つの目的を皆で話し合う機会なんて、あまりないと思うので、今回いろいろ考えさせられました。とても貴重な体験が出来たと思っています。

金城さつきさん（30代）沖縄国際大学学生支援室

地域の人たちのおもいに寄り添うということ。まだできていないが、櫻井先生がインタビュー時に話をしてくれた人々の想いに寄り添っているか？という言葉が残っている。本質的な課題をどう見抜くか。課題と思っている人、そうでない人のずれにどう対応するのか。（学ぶことができた）嘉数区へ思いをもった人々がつながり、地域をよりよくしていこうと動いている事に考えさせられることがたくさんありました。

上原泉さん（50代）読谷村役場福祉課地域福祉係

市外から参加させていただきましたが、受入れていただきありがとうございました。思いを持った地域の方々と意見交換したりできたことテーマにそって考えたことは大きな学びとなりました。

（嘉数区というフィールドから得たこと）地域資源の再確認と、活用の可能性を考えられたこと。

伊波清正さん（60代）嘉数区自治会

チームで活動することの大切さ…色々な意見や提案等を聞くことで、気づきや学びがあった。目を向けることで今何が必要か、何ができるかを知るきっかけになった。特に嘉数区は、ハード面は恵まれていて、後はソフト面をどう広げていくかがポイントであると思う。

荒尾みどりさん（50代）

問題点を掘り出し、整理して、解決への糸口を見つける。それを「自分」がやるのではなく、地域の人々によって解決するコーディネーターの役割は難しいなあと感じた。これまで仕事では、「コーディネーターになるな！」「実践者であれ！」と言われ育ってきたので、一步退いた役割はなかなか身につけていない。むずかしい…。

（今後、宜野湾市の地域づくりにどのように関わっていくか）大山のターム畑の保存にとっても興味を持っています。都市開発も大切ですが、今ある資源を生かす地域づくりに関わりたいと思います。

（４）モデル地区：嘉数区の現況

宜野湾市嘉数区は、普天間基地の南西に位置し、人口は3,662人（平成31年）の地区です。嘉数区は、沖縄戦で激しい戦禍を受けながら、基盤目の地割、石垣など、古い旧来の主かけを残している集落で、近年、那覇市のベッドタウンとして都市化しました。区内にある嘉数高台公園の展望台からは、普天間基地が一望できるため、観光客や修学旅行での平和学習にも利用されています。

自治会の加入世帯数は、1,605世帯の内、418世帯（加入率26%）（平成30年）となっています。



図 宜野湾市における嘉数区の位置

表 嘉数区と宜野湾市の人口推移

		平成8年 1996年	平成17年 2005年	平成26年 2014年	平成28年 2016年	平成30年 2018年
嘉数区	人口	2,835名	3,166名	3,537名	3,638名	3,656名
	世帯数	940世帯	1,184世帯	1,420世帯	1,504世帯	1,572世帯
	65歳以上人口 (高齢化率)	—	—	648名 (18%)	725名 (20%)	769名 (21%)
宜野湾市	人口	82,698名	89,189名	95,396名	96,886名	98,435名
	世帯数	29,149世帯	35,617世帯	40,659世帯	42,104世帯	43,834世帯
	65歳以上人口 (高齢化率)	—	—	15,215名 (16%)	16,697名 (17%)	18,004名 (18%)

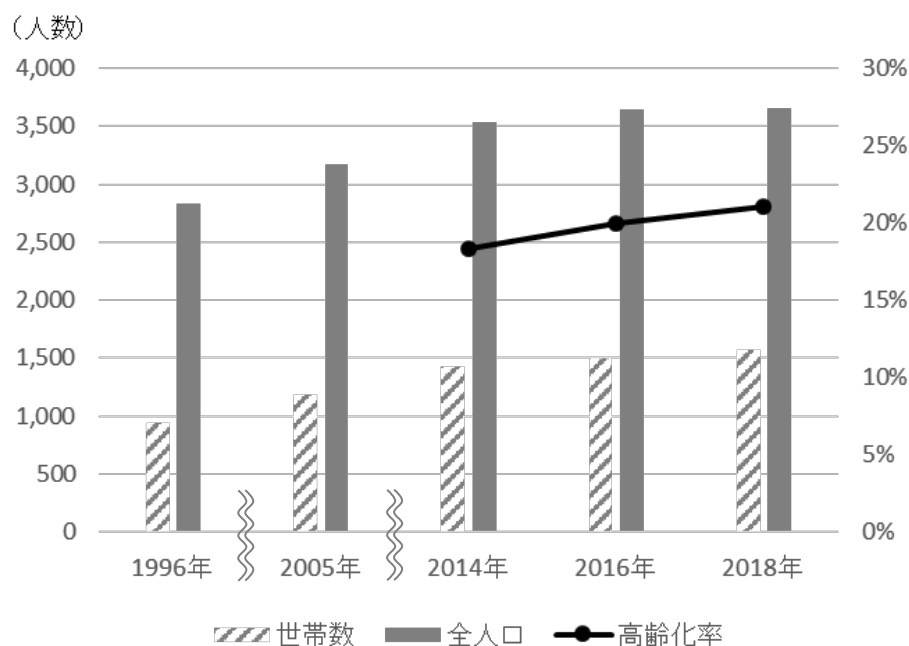


図 嘉数区の人口、世帯数、高齢化率推移

【伊波自治会長がみる嘉数区の困りごと】

ぎのわん地域づくり塾では、嘉数区に寄り添った企画提案を行うことを目的とし、自治会長である伊波稔会長と、嘉数小学校地域コーディネーターである新垣真弓さんに、自治会や学校に寄せられる相談ごとや、より良くしていきたいことなどから、現在の困りごととして以下の4項目を挙げていただいた。

表 嘉数区の4つの困りごと

分野	地域課題（例）
嘉数高台公園の活用	・ 嘉数高台公園は、普天間基地を一望でき、県外、国外からも観光客が訪れる場所となっている。現在、駐車場の拡大や桜の名所とする計画など、新たな観光の地となるようリニューアルも計画されている。 ・ 自治会と関わる仕組みがないため、地域として公園を活用したコミュニティビジネスができないか。
持続可能な平和学習	・ 嘉数区は、県外の修学旅行で平和学習の受け入れを行っている。 ・ 現在、平和の語り部が3名いるが高齢化している現状がある。戦争体験者も高齢化するなか、平和学習を持続可能にするにはどのようにすればよいか。
高齢者の見守り	・ 嘉数区には、独居高齢者が集まっている区域があり、公民館も高台にあるため、公民館行事（ミニデイ等）に参加しづらい高齢者もいる。 ・ 地域としてどのように関わり見守っていくか。
子どもの居場所	・ 部活や習い事をしていない子どもたちの居場所が少ない ・ 児童センターがない ・ 共働き家庭が多い



図 嘉数区 MAP

＜主催者からみた地域づくり塾＞



塾長 宜野湾市
松川 正則 市長

本市では、宜野湾市市民協働基本指針に「誇りと愛着の育まれるまちづくり」を掲げ、協働によるまちづくりを進めているところでございます。その実現のためには、一つの組織、団体では対応できない複雑化した地域課題を、様々な人や組織が関わり解決していくことが求められております。当塾は、そのような人や組織の「つなぎ役」となる人材の育成を目的として開催しております。今期の課程を修了した4期生の皆さまにおかれましては、今後も引き続き卒塾生とともに自主交流会や活動にご参加下さり、協働による地域づくりの担い手、つなぎ手として、ご活躍されることを期待しております。



宜野湾市教育委員会
知念 春美 教育長

本市教育委員会では、令和2年度から全小中学校で地域とともにある学校として「地域協働学校」いわゆるコミュニティ・スクールを推進しています。生涯学習課でも、独自事業で地域コーディネーターにご協力いただいておりますが、地域づくり塾の皆さまにも、学校・家庭・地域の連携・協働の「つなぎ役」としてのご活躍に大いに期待しております。



宜野湾市
社会福祉協議会
多和田 眞光 会長

本会では、「地域福祉」の推進に取り組んでおり、その実現のためには、協働した地域づくりが基盤となり、幅広い分野の方々がつながり地域の課題に対し取り組むこと。その「つなぎ役」となる地域コーディネーターの役割が重要となります。今期、受講終了しました皆様には、地域づくりの担い手として大いに活躍されますことを期待いたします。



第 2 章

ぎのわん地域づくり塾の 講座内容

第2章 ぎのわん地域づくり塾の講座内容

(1) 第1回 足元の資源を生かした「地域経営」～浦添市自治会の取り組みに学ぶ～

【ねらい】

- ・ 地域づくりのプロセス、コーディネーターの役割の共有
- ・ 地域づくりの楽しさを知る

○概 要

「ぎのわん地域づくり塾 2019 第1回講座」は公開講座として櫻井常矢教授と浦添市港川自治会の銘荊全朗会長、しかたに自然案内の鹿谷真弓氏をお招きして、足元の資源を生かした「地域経営」について考えた。銘荊会長、鹿谷氏から港川自治会の取り組みと里浜の保全活動の取り組みをご紹介いただき、地域の資源を生かし、自治会の枠を超えた地域づくりを学び、櫻井先生から新たな地域づくりへの視点として自治会の課題と可能性等をお話しいただいた。

テーマ：足元の資源を生かした「地域経営」～浦添市自治会の取り組みに学ぶ～

日 時：2019年7月6日（土）13:00～17:00

会 場：宜野湾市中央公民館 集会場

講 師：櫻井 常矢 氏（高崎経済大学 教授）

ゲスト：銘荊 全朗 氏（浦添市港川自治会長） 鹿谷 麻夕 氏（しかたに自然案内 代表）

参 加：73 名



73名の参加者が地域づくりについて学ぶ



櫻井常矢教授、銘荊全朗氏、鹿谷麻夕氏による講演

～ 参加者の声 ～

- ・ 活動の目的をどのようにとらえ、どういった姿を目指すのかを意識しながら取り組んでいくことを大切にすることを学びました。
- ・ 自治会の役割やありかた、今までに自分の中にある視点もありとてもおもしろく、気づきにもなった。「知らない」を強みに楽しくコーディネーターについて学んでいきたいです。
- ・ 「反対しない活動」や「自分でできないことはできる人を見つけてやる」という点は新しい気づきだった。

(2) 第2回 現場から学ぶ「モデル地区：嘉数区」の地域課題と実践を知る

【ねらい】

- ・ 塾生同士が知り合う
- ・ 全7回のプログラムを理解する
- ・ モデル地区となる「嘉数区」について、「地区の状況」「自治会の取り組み」「地域課題」を知る
- ・ チームに分かれ「地域課題」についての認識を共有する

○概 要

第1回講座の振り返りから始まり、「部屋の四隅ワーク」によって、塾生同士の共通点からお互いが知り合うきっかけを作った。伊波自治会長より、嘉数区の歴史や特徴、現在の地域活動、地域課題について、嘉数小学校の地域コーディネーターである新垣真弓氏より、嘉数区の子どもたちを取り巻く環境と課題をお話しいただき、嘉数区の地域課題を4つご提示いただいた。

テーマ：現場から学ぶ「モデル地区：嘉数区」の地域課題と実践を知る

日 時：2019年8月3日（土）9:30～15:30

会 場：嘉数小学校 地域連携室

講 師：新垣 真弓 氏（嘉数小学校 学校地域コーディネーター）

参 加：塾生 24名



「部屋の四隅ワーク」から共通点を探し塾生同士が知り合う



伊波会長と新垣真弓氏から嘉数区について聞く

～ 塾生の声 ～

- ・ 「困りごと」「原因や背景」「これから調べる事」を考える事で漠然ととらえていた事を具体的に考える事ができた。
- ・ 歴史的にもおもしろい地域のように感じた。目に見えるもの、見えないものと地域の資源もたくさんあるように感じた。
- ・ チームでのワークを通して様々な活動・所属の方々と「公園の活用について」を話し合うことで、色んな視点の意見を聞くことができた。

(3) 第3回 フィールドワーク～まちあるき～

【ねらい】

- ・ フィールドワークに向けて、どのような情報を得たいのかを明らかにする
- ・ 各チームで設定した地域課題を探るための情報を得る（まちあるき）

○概 要

午前中で、第2回講座で各チームが設定した地域課題を探るため、フィールドワークで得たい情報を書き出し、まちあるきのルートづくりを行った。午後は、各チームで嘉数区のまちあるきを行い、商店の方やお宅を訪問して住民の方にお話を伺ったチームもあった。その後は、得られた情報をまとめ、各チーム発表し共有した。

テーマ：フィールドワーク～まちあるき～

日 時：2019年8月17日（土）9:30～15:30

会 場：嘉数小学校 地域連携室

講 師：宮道 喜一 氏（まちなか研究所わくわく 事務局長）

参 加：塾生 27名



チームで、フィールドワークで得たい情報を書き出す



嘉数高台公園を調査

～ 塾生の声 ～

- ・ 課題を持って現場に行くと、ただ漠然と歩いているより問題点や可能性が見えてくる。
- ・ 歩いて実際の目で見ることの大切さを改めて実感しました。
- ・ 実際に歩いてみると住宅街の道路が狭い。
- ・ 民家の集落等、残しておきたい風景を肌で感じる事ができた。

（４）第４回 スキルアップ講座 「企画」の立て方とファシリテーション

【ねらい】

- ・ 話し合いの進め方の基礎スキルを得る
- ・ チームディスカッションのルールづくり
- ・ 話し合いのプロセスや役割について学び、実践する
- ・ 嘉数区への企画提案に向けた企画の立て方の共通理解を得る

○概 要

本講座では、塾生だけでなく社会福祉協議会職員の方なども交え、地域づくりのプロセスを推進していく中で基礎となる「話し合う」ためのスキル「ファシリテーション」と企画の立て方について学んだ。ミニワークとして、これまでに経験した「嫌だなと思う会議の場面」について各チームで出し合い共有し、そこから、話し合いながら話を聴くこと、共有することの大切さを学び、最後に、チームの中で大切にしたいことを話し合った。

テーマ：「企画」の立て方とファシリテーション

日 時：2019年8月28日（水）18:30～21:00

会 場：沖縄国際大学 3105 教室

講 師：宮道 喜一 氏（NPO 法人まちなか研究所わくわく 事務局長）

参 加：塾生 22 名、一般 8 名



各グループでミニワークを実施



各チームで出た意見をホワイトボードに書き出し共有



～ 塾生の声 ～



- ・ 対話による、共有、共感があつて、はじめて協働、共創することができる。
- ・ 人は、集い、関わることで「自主性」や「主体性」が生まれ「当事者意識」が芽生える。
- ・ 話し合いの場における「ファシリテーション」は参加や発言、相互交流がしやすい状況をつくること。

(5) 第5回 フィールドワーク～地域インタビューと他地域の実践から学ぶ～

【ねらい】

- ・ 各チームで設定した地域課題を探るための情報をインタビューで得る
- ・ 浦添市森の子児童センターの実践から他地域の実践を学ぶ
- ・ 次回の企画づくりと中間発表に向けた準備

○概 要

初めにインタビューの作戦会議として、質問リストづくりを行った後、自治会、ていがね会、青年会、老人会、民生委員、公園指定管理者へインタビューを行った。嘉数区の特徴や現在の地域での活動等を伺った後、各チームから最終発表に向けた現在の検討内容についてプレ発表を行った。その後、櫻井常矢教授と大城喜江子氏より、森の子児童センターの実践を通してコーディネーターの視点を学んだ。

テーマ： フィールドワーク～地域インタビューと他地域の実践から学ぶ～

日 時：2019年9月1日（日）9:30～15:30

会 場：嘉数小学校 地域連携室

講師：大城 喜江子 氏（浦添市森の子児童センター）、櫻井 常矢 氏（高崎経済大学教授）

参 加：塾生 24名、一般 14名



嘉数区に関わる方々へインタビュー



櫻井教授、大城氏より、他地域の実践について学ぶ

～ 塾生の声 ～

- ・ 嘉数区に関わっている方々にインタビューして、実際現場で起きていることと、それに対してどういう対策をしようとしているのかを知ることができました。自分たちが想像していた課題点と同じものもあったけど考えていなかった課題点もありました。やっぱり深く関わりのある人の話を聞くことが大事なのだと感じました。
- ・ “思い込み”はNG。丁寧に話をきく。話し合いをする。課題を掘り下げる。地域の人を尊重する。「地域に学ぶ」「人づくりから住み続けるまち」を参考にしたい。

(6) 第6回 企画づくりと「中間発表」

【ねらい】

- ・ 自主活動で得た情報の共有（各チーム）
- ・ 中間発表に向けた準備
- ・ 最終発表に向けて、企画のブラッシュアップ

○概要

嘉数区の課題の解決に向けて、①チームで設定した「地域課題（困りごと）」＋設定した理由、②地域課題（困りごと）の解決方法、③嘉数区でどう行えば実現できるか（実現する道のり・プロセス）を基に、午前中は企画づくりを行った。午後からは、各チームで中間発表を行い、発表を聞く塾生は、発表チームに貢献する「質問」「意見」を付箋紙に書いた。その後、付箋紙をもとに意見を交わし、最終発表に向けて企画をブラッシュアップした。

テーマ：企画づくりと「中間発表」

日時：2019年9月29日（日）9:30～15:30

会場：宜野湾市中央公民館 2階集会場

講師：宮道 喜一 氏、金城 陽平 氏（まちなか研究所わくわく）

参加：塾生 14名



中間発表風景（チームねだて）



中間発表に対し質問や意見を交わした

～ 塾生の声 ～

- ・ 他のチームからの意見を聞くことで自分達で気づけなかった部分に気づくことができた。
- ・ 継続的に活動を行うための手法は提案に必ず入れた方が提案を受ける側は安心するのかなと気付いた。
- ・ 前回でた話とは別の視点からの意見が出たので、“テーマについて揉む”ということが重要だと感じました。

(7) 第7回 最終発表および修了式

【ねらい】

- ・ 嘉数区に貢献することを目標に各チームが発表を行い、宜野湾市の協働の地域づくりにつなげる
- ・ 次年度のモデル地区につなげる

○概 要

塾生は午前中に発表準備を行い、午後から最終発表を行った。嘉数区をフィールドに4か月間学んだ成果を、嘉数区の皆さんに向けて、5つのチームが発表した。嘉数区の方から各発表に対するコメントを頂き、課題の共有を行った。全チームの発表に対するコメントを伊波自治会長、櫻井常矢教授からいただいた。その後、修了式にて、宜野湾市社会福祉協議会の多和田会長から塾生に修了証を授与し、ぎのわん地域づくり塾を修了した。

テーマ：最終発表および修了式

日 時：2019年10月5日（土）9:30～16:00

会 場：宜野湾市社会福祉協議会

講 師：櫻井 常矢 氏（高崎経済大学 教授）

宮道 喜一 氏（まちなか研究所わくわく 事務局長）

参 加：塾生 19名、一般 4名



嘉数区の皆さんに向けて企画提案発表



修了式にて修了証書授与

～ 塾生の声 ～

- ・ 地域課題は時間をかけて、ていねいに拾い掘り下げる必要性を学んだ。
- ・ 是非、今回グループで提案した企画を嘉数区で実現できたらと考えています。
- ・ 櫻井先生の講義を受講して、改めて、自分自身が「自治会」の枠にとらわれて考えているんだなと気付かされました。

＜企画発表に対する嘉数区住民のコメント＞

各チームの最終発表後に、発表に対する感想を嘉数区自治会の皆さんにお聞きした。



嵩元 大貴さん
嘉数区青年会

自分の住んでいる嘉数について、市内外から参加して頂いた皆様が親身になって考えてくれたことに感動しました。地域に戻って、関わりのある人と話し合い、もっと発展させ、自分たち若者の居場所や、後世に対して何ができるのか考えて取り組んでいきたいです。



伊波 清正さん
嘉数区民生委員

平和学習について、地元の子どもも深く知らないことがあるなかで、県外から来た子どもたちが話を聞くだけでは忘れてしまうと思います。QRコードにすることで、記録に残り、家族にも広がっていくと思うので、嘉数区として、皆の力で実現出来たらと思います。



城間 浩さん
嘉数区育成会

普段、小さいコミュニティ内で関わる人が限られるなかで、こうしたらいいんじゃないかと提案を頂けたことが糧になりました。これで終わりにせず、嘉数区の事に取り組んでいけるようにしたいです。



伊波 義雄さん
嘉数区老人会

居場所づくりの時の子どもたちを見る人、監視が十分に行き届くか、親が安心して高台公園に行かせられるかが大きな課題だと思います。素晴らしい提案をありがとうございます。

表 企画発表一覧

企画タイトル	チーム名
嘉数高台公園の活用	嘉数公園を立て直す隊
子どもの居場所をつくろう！！	わらば～見守り隊
ジュニア・エイサー隊結成！	E～ね！かかずっ子！
E-スポーツを通した嘉数公民館のサロン化	嘉数 E-スポーツ普及会
嘉数高台公園の活用と平和の語り部の継承	ねだて

＜アドバイザーからみた地域づくり塾＞



高崎経済大学
地域政策学部
櫻井常矢 教授

高齢化時代の地域づくりには、会員のみに閉ざされた自治会や団体活動ではなく、他の地域・団体との「連携・協働」など、多様な力を受け入れる外に開かれた取り組みが求められます。今回の塾では、世代間の継承も含め、そうした自治会や団体の努力が多く見られました。塾での出会いを新たなつながりとして、ぜひ一緒に頑張ってください。

第3章

嘉数区の困りごとに応じた 企画提案

第3章 嘉数区の困りごとに応じた企画提案

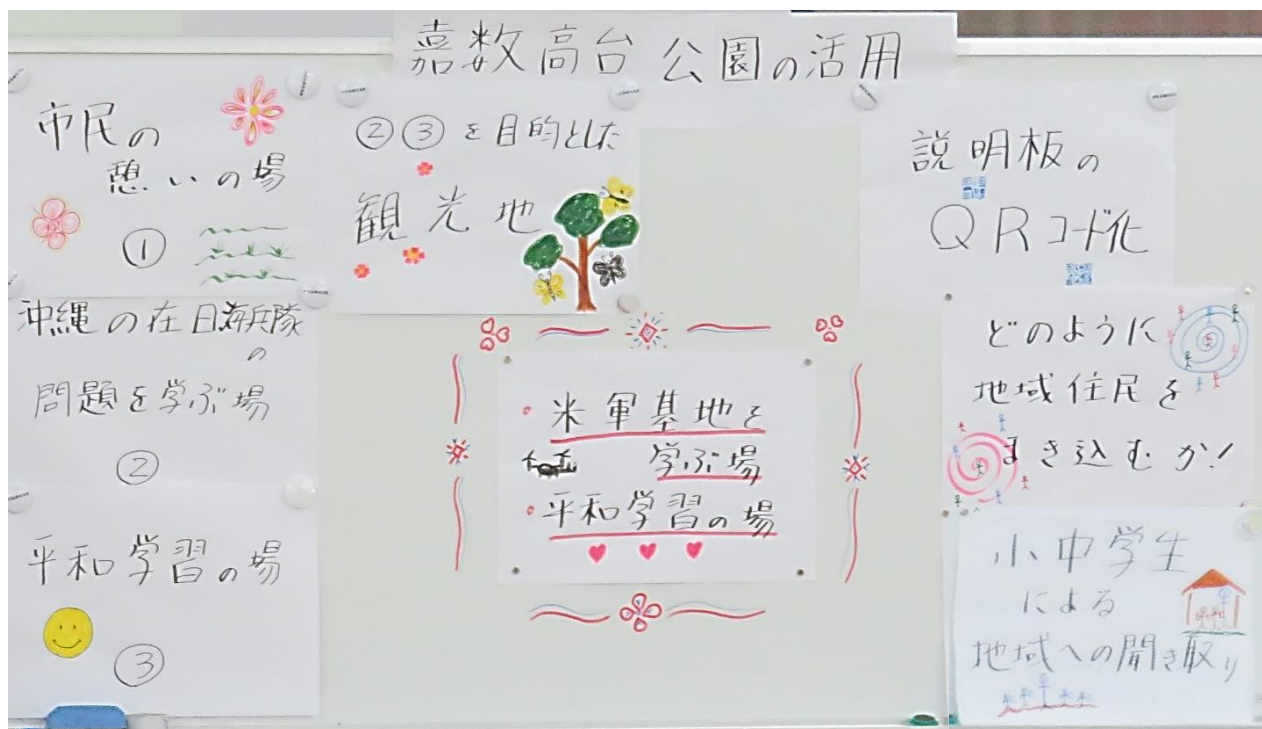
(1) 嘉数高台公園の活用 (チーム名：嘉数高台公園を立て直す隊)



メンバー氏名	所属
仲本 雄哉	FM ぎのわん
石川 楓音	琉球大学工学部 学生
花城 小百合	居酒屋 花若丸
荒尾 みどり	—
長濱 美津枝	大謝名自治会
伊波 稔	嘉数区自治会
伊佐 哲雄	市議

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	嘉数高台公園は、多くの方が平和学習の場として利用しているが、どれだけの人に嘉数区歴史が伝わっているかわからないため、もっと有意義に利用できる方法を考える。
○解決方法	○公園内に設置する戦争や基地関連の説明版のQRコード化 目的：公園内の戦争や基地関連の説明版をQRコード化することで、以下の5つのメリットがある情報発信を行う。 ① 従来の説明版より設置のコストや時間を削減できる ② 多言語対応しやすく、外国人の利用促進も図れる ③ 写真や動画があることでより記憶に残りやすい ④ 音声により、視覚障がい者のバリアフリーになる ⑤ 公園の景観をなるべく崩さない発信する
○実現する道のり・プロセス	QRコード導入のための嘉数地域の戦争体験の聞き取りや情報収集を地域の小中学生の社会科見学盛り込む。話を子ども達が戦争体験者へインタビューし、その映像をQRコードのリンクから見られるようにする。子ども達にとっては、フィールドワークによって地域とのつながりづくりと、能動的な平和学習を行うことができ、QRコードは情報を定期的に更新することができる。 活動を鼻の植樹や緑化活動につなげることで、明るい公園のイメージも再構築できる。



最終発表での作成資料



最終発表の様子

(2) 子どもの居場所をつくろう！！ (チーム名：わらば～見守り隊)



メンバー氏名	所属
伊波 清正	民生委員
米須 和美	学校地域コーディネーター
皿山 佳英	琉球大学 学生
知念 小春	FM ぎのわん
金城 さつき	沖縄国際大学 学生支援室

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	嘉数小学校の学校地域コーディネーターである新垣真弓氏の話から、嘉数小学校では放課後、塾や習い事に行っていない子どもたちの居場所が少ないとの困りごとがあったため、子どもたちの居場所が必要だと考えた。
○解決方法	○子どもの居場所をつくる 目的：①放課後の子どもの居場所をつくる②居場所をつくるために関わる人々が緩やかなつながりができ、多世代交流の場となる③子どもの活動の中に独居高齢者の安全確認など、地域の高齢者と関わる機会を設ける いつ：平日の放課後の時間帯 どこで：嘉数区公民館の昼間、体育館 誰が：嘉数区自治会、自治会組織、民生委員 誰と：嘉数区の中高生有志のサポート、琉球大学や沖縄国際大学のボランティア 内容：学習支援、遊び、ゆんたく、独居高齢者の訪問
○実現する道のり・プロセス	子どもの居場所が必要か、より実態を掴むためのリサーチや、他自治会の子どもの居場所を視察し、嘉数区で実現性を話し合う。資金は、宜野湾市地域づくり助成を活用する。



チームで取り組む課題の整理とまちあるきのルートづくり



最終発表の様子

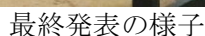
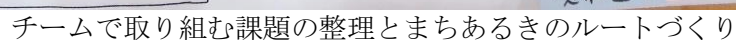
(3) ジュニア・エイサー隊結成！ (チーム名：E～ね！かかずっ子！)



メンバー氏名	所属
上原 一哲	宜野湾市社会福祉協議会
嵩元 大貴	嘉数区自治会 青年会
西 英理	宜野湾市役所
浜川 ルミ子	
宮城 薫	沖縄ジュニア科学クラブ

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	① 子ども会は対象年齢が小学生まで、青年会は高校生からと決められており、中学生世代をフォローし、子ども会から青年会をつなぐ団体が無い。 ② 青年会を中心に活動している地域伝統エイサーの加入者が減少し継承が難しくなりつつある ③ 子ども育成会は子ども会の保護者を中心に構成されているが、子どもが子ども会から卒業するため、地域活動に関わっていた方が自治会を離れてしまう
○解決方法	○ジュニア・エイサー隊の結成 目的：中学生の居場所をつくり、地域伝統エイサーの担い手を育成する いつ：月1回以上の活動 どこで：嘉数区自治会、嘉数高台公園、比屋良川公園 誰が：中学生、青年会（指導役）、ていがね会、子ども育成会（サポート） 誰と：嘉数区自治会、子ども会、嘉数中学校 内容：エイサー活動を通して、中学生の居場所づくり、地域伝統エイサーの継承 予算：「宜野湾市地域づくり助成金」「宜野湾市ボランティア団体等が実施する子どもの居場所運営事業補助金」を利用
○実現する道のり・プロセス	① 青年会、ていがね会、子ども会、子ども育成会で地域課題、企画の共有 ② ニーズ調査の実施、結果から活動の詳細を決める ③ 補助金や助成金を申請し予算を確保する ④ 地域、学校で周知し、活動をスタートする



（４）E-スポーツを通した嘉数公民館のサロン化（チーム名：嘉数E-スポーツ普及会）



メンバー氏名	所属
城間 浩	嘉数区自治会
久保田 清	
平良 忍	上大謝名自治会
安里 純也	沖縄県労働者福祉基金協会
伊藤 恩希	琉球大学 学生

【企画概要】（企画書を基に事務局が作成）

○地域課題 （困りごと）	嘉数高台公園の活用や高齢者の見守りなどの課題を解決するには、限られた人数では限界があるため、多くの区民が公民館に集まり、気軽に意見交換ができる環境をつくる必要があると考えた
○解決方法	『E-スポーツを活用し公民館のサロン化』 サロンの様にリラックスできて、何か楽しいことがありそうな公民館をつくるため、E-スポーツを活用する。E-スポーツを楽しんだ後に課題解決に向けた意見交換を行うことで、課題解決のための環境づくりを行う。
○実現する道のり・プロセス	嘉数区自治会組織から有志を集めて、専門委員会を設立し、E-スポーツの勉強会、広報、公民館の環境整備、公民館サロン化のためのルール作り、少数でのE-スポーツの大会を開催するなど活動の幅を広げていく。 予算：ゲーム機、モニター、インターネット環境などの初期投資は、「宜野湾市地域づくり助成金」を活用する。



チームで取り組む課題の整理とまちあるきのルートづくり



最終発表の様子

(5) 嘉数高台公園の活用と平和の語り部の継承 (チーム名：ねだて)



メンバー氏名	所属
伊波 義雄	嘉数区自治会
仲井間 正江	
上原 泉	読谷村役場
津波 優子	
翁長 笑花	宜野湾市社会福祉協議会
田場 志穂	琉球大学 学生

【企画概要】(企画書を基に事務局が作成)

○地域課題 (困りごと)	① 嘉数区民向けに嘉数高台公園での平和学習を行う機会がなかった ② 平和の語り部の担い手不足
○解決方法	○夏休みのラジオ体操×平和学習のコラボ 目的：戦争の歴史を学べる嘉数高台公園を知って・学んで・伝えて・継承する いつ：毎年、夏休みの第3土曜日（仮）のラジオ体操終了後、10時まで どこで：嘉数高台公園 誰が：嘉数区の小学6年生と中学生がガイドになる 誰と：平和の語り部、自治会、老人会、青年会、子ども育成会、子ども会、ラジオ体操に参加する親子 内容：平和学習を行い、戦争の歴史、資源を学び、地元愛を育むきっかけづくりを行う。また、平和ガイドの取り組みを広げ、平和の語り部の担い手育成につなげる。 予算：地域づくり推進事業助成金の活用/宜野湾市市民協働推進会平和学習用の教材づくり（子ども向けパンフレット、DVD作成等）
○実現する道のり・プロセス	① 自治会から各団体に呼びかけ、現在の課題と取り組み案を伝える。 ② 各組織の役割分担を行う ③ 企画の実施 ④ 反省、振り返り、次年度以降も継続的に開催 小学6年生、中学生へのアプローチについて 中学校内の自治会組織の役員の子どもたちに呼びかける。中学生は、企画段階から参加してもらう。平和の語り部からレクチャーを受け、慰霊祭で小規模の平和ガイドを実施、夏休みに企画案の平和ガイドを実施。

テーマ「嘉数高台公園の活用と平和語り部の継承」

チームおたて★メンバー★

・伊波義雄・仲井間 正江・上原 泉・津波 優子・翁長 笑花・田場 志穂

目的

・戦争の爪跡が残る貴重な資源(嘉数高台公園)を、知って学んで伝えて継承する!

★地域課題・現状

・地元住民・子どもたち向けに嘉数高台公園で平和学習を行う機会がなかった。(現状)
・平和の語り部の担い手不足

★生かしたい地域資源

・嘉数高台公園を活用した平和学習
・現在活躍している語り部の方々
・中学校内にある自治会
・整備されていく公園
・地域の子供たちが集まるラジオ体操

★解決策・取り組み

・地元の子供たちを対象とした独自の平和学習の開催
・嘉数高台公園でのイベント(ラジオ体操、桜まつり、まつりなど)とコラボした平和学習

★実現するためのプロセス★

① 初回は、自治会の呼びかけで各自治会組織(老人会、青年会、育成会、子ども会)、嘉数中学校内にある自治会、平和の語り部のメンバーで集まる。(委員会の立ちあげ!)

② 役割分担
③ 企画の実施
④ 振り返り
⑤ 継続的な取り組み

POINT

・知って、学んで、伝えて、継承する!
・小学6年生、中学生へのアプローチ

(企画) → (実施(慰霊祭))

→ (実施(ラジオ体操)) →

(自治会行事での発表)

※ 平和ガイドの育成が「カギ」になる

★企画案

「夏休みのラジオ体操×平和学習」

いつ
毎年夏休みの第3土曜日(仮)のラジオ体操終了後(年1回)

どこで?
嘉数高台公園

誰が?
嘉数区の小学6年生と中学生が平和ガイドになる

誰と?
平和の語り部の皆さん、自治会、自治会組織(老人会、青年会、子ども会等)、ラジオ体操に参加した子ども、保護者

○何をやる?

ラジオ体操終了後、小学5年生の親子を対象に、小学6年生、中学生の平和ガイドによる高台公園での平和学習、スタンプラリー、DVDなどを通して平和について学ぶ機会をつくる

○予算は?

「宜野湾市地域づくり事業」
●人材育成事業
イ 本市の地域特性を活用した人材育成事業
を活用し、平和学習用の教材作り、平和ガイドの養成にあてる

最終発表の作成資料

＜モデル地区の自治会長からみた地域づくり塾＞



嘉数区自治会
伊波 稔 会長

今回で4期目となったぎのわん地域づくり塾は、嘉数区自治会がモデルとなり、地元住民、市内外からの受講生が参加し、嘉数区の抱える課題について、各チームで議論を深め全員で再検討し、講師の助言も添えながら塾を開催出来たことは誠に時宜を得た事業と思います。課題解決に向けいろいろな意見を共有し学習することが、解決策への大切なプロセスであることを学び、地域コーディネーター養成の機会となりました。これからの自治会活動を運営するうえで、地域資源の活用、人材活用等を地域コーディネーターと共に進めていきたいと思っています。

＜講師からみた地域づくり塾＞



まちなか研究所わくわく
宮道喜一 事務局長

今期のモデル地区である嘉数区では、若い世代から高齢世代までが、縦につながり活動する姿がありました。塾生もこれからの地域・自治会・公民館のあり方の可能性を見たのではないのでしょうか。

第4期を終え、100名を超えた修了生が、宜野湾市の地域づくりの担い手として、つなぎ手として活躍していくことを期待しています。

第 4 章

塾生アンケートまとめ

第4章 塾生アンケートまとめ

（１）アンケート概要

○調査方法：ぎのわん地域づくり塾の修了式後、塾生にアンケート用紙を配布して回答を得た。

○回収結果：第4期塾生28名、回答数17名、回収率60%

修了した塾生28名のうち、17名の方にアンケートをご回答いただいた。回答者の年代は下記表のように幅広い年代の方にご回答いただいた。

表 アンケート回答者の年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
人数（名）	1	3	1	3	4	3	1	1

（２）各設問項目の結果

設問1) 2) については、5段階評価で回答頂き、その他の設問は自由記入で回答いただいた。その結果について以下にまとめた。自由記入については原文のまま記している。

設問1) 開催期間、時期について

今回の7月～10月の4カ月間の開催期間について、5段階評価をいただいた結果、「満足」、「やや満足」と回答した割合が7割を超え、「どちらでもない」「やや不満」と回答した割合は、3割未満、「不満」との回答はなく、満足度は高いと言える。「開催時期はいつがよいですか？」との問いには、「今期と同じ」14名、「別の期間」2名、「無回答」1名であった。別の期間と答えた方は、9月～12月（夏休みは繁忙で自治会や外の活動団体の活動があるから）、11月～1月（台風が少ない）との回答があった。

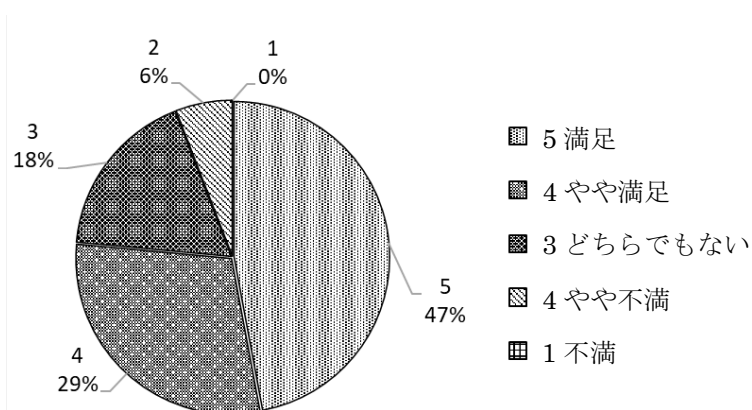


表 開催時期はいつがよいですか？

開催時期	人数（名）
今期と同じ7～10月	14
別の期間	2

図 開催期間の評価（5段階評価）

設問2) 講座について

講座の回数（全7回）、全体的な講座内容、1講座の時間設定（休憩1時間を含む6時間目安）に対する評価を5段階評価でいただいた。講座内容は、「満足」と回答した方が半数を超え、講座時間も半数が「満足」と回答したが、「やや不満」と回答した方が1名ずついた。講座回数では「やや満足」が最も多く8名、「やや不満」と回答した方が2名、いた。

また、各講座の満足度に関しては、「満足」「やや満足」と回答いただいた方が多数だが、第6回の中間発表では半数の7名が「どちらともいえない」と回答しており、平均満足度は3.64だった。第3回講座では、1名の方が「やや不満」と回答している。満足度の平均が高い講座は、第7回の最終発表・修了式の4.6、次いで第1回公開講座の4.5であった。

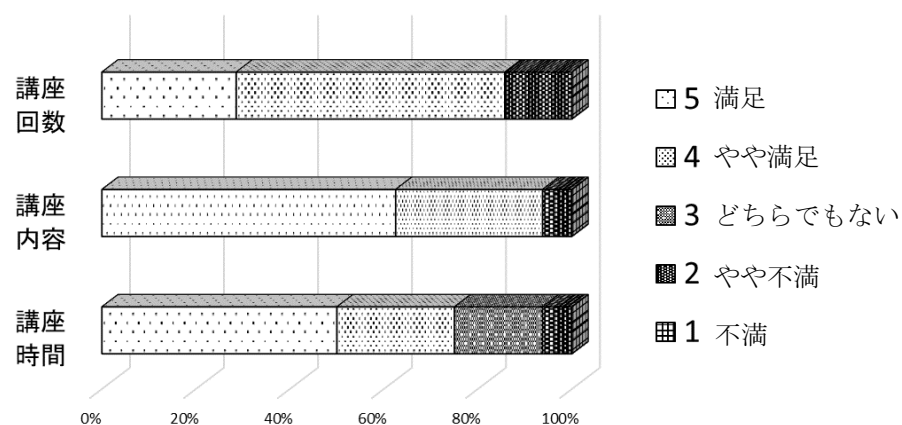


図 講座の設定に関する評価（5段階評価）

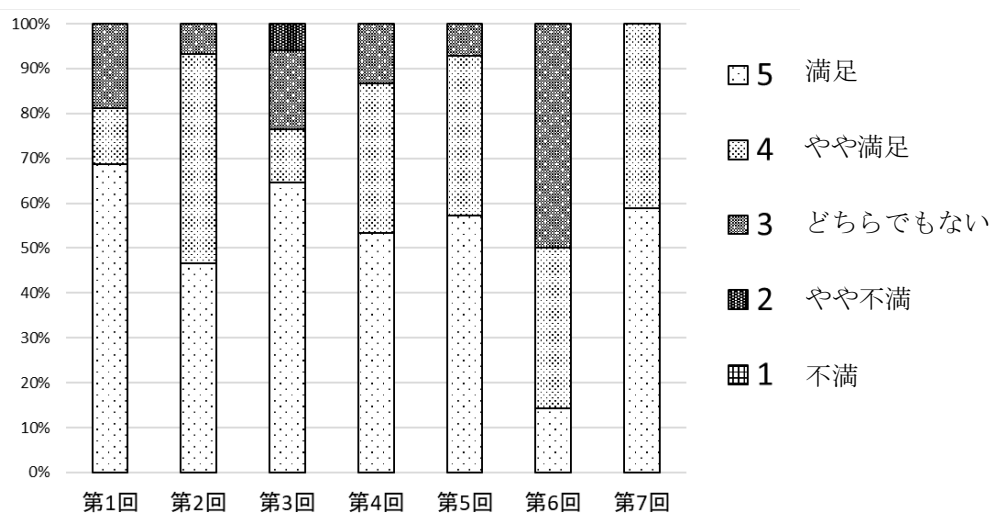


図 各講座の満足度（5段階評価）

表 各講座の満足度（平均）（5段階評価）

講座	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回
満足度（平均）	4.50	4.38	4.35	4.4	4.5	3.64	4.59

設問3) 会場（嘉数小学校、宜野湾市中央公民館、沖縄国際大学、宜野湾市社会福祉センター）について感じたことがあればご記入ください。（位置や交通の便、会場の広さなど）

○良い点

- ・特にありません。総じて良かったと思います。
- ・駐車場もあり、十分だったと思います。
- ・駐車場もありましたし、アクセスもしやすかったです。
- ・会場はよかった
- ・気にしてません
- ・近いので良かったです
- ・会場に案内板があり、分かりやすかったです。

○改善点

- ・大学が少しせまかった
- ・会場提供ありがとうございました。おかげで充実した講座を受ける事ができました。中央公民館←クーラーもう少しおさえても良いのでは。前の方は寒かった。
- ・できれば全て同じ場所でやってもらいたい
- ・施設は小学校を利用した方がよい
- ・最終発表は社協ではなく、明るい雰囲気のある場所が良かった
- ・同じ場所の方が「次はどこだっけ？」とまよわないと思います。

設問4) チームで企画を考えていくなかで、今回の提供講座以外で必要と感じた内容や改善点はありますか？

○要望

- ・チーム内の検討する時間が少ない為、もう少し増やしてほしい
- ・7回の中では出来ないこと（時間が足りなくて）などもあったので、講義の中で、フィールドワークや、話し合う時間がもっと欲しいと思いました。
- ・第5回目のインタビューの後、課題の実態をより理解するために、時間が必要だと感じた。グループで自主的な集まりを設定したが、時間、人数不足で深められなかったため、解決策を考えることにつながられているのか気になる…

- ・グループで話し合う時間を長い方が良いと思う
- ・もっとグループディスカッションの時間がほしかったです。

○必要と感じた内容

- ・自主活動の進め方

○感想

- ・チーム全員が参加できる日程調整が必要と感じました。

設問5) スキルアップ講座で得た「企画」の立て方やファシリテーションのスキルを、チーム活動に活用することができましたか。または、チーム活動の行う際に、難しいと感じたことはありますか。

○活用できた

- ・各々の意見を受け入れる、確認する。
- ・メンバーが全員で講義を受ける事で「対話」から協働に至るプロセスを共有し「何のために！」という共通認識がぶれることがなかった。

○難しかった点

- ・自主活動への取り組みが難しいと感じました。最終日を迎え、限られた講座期間の中で自主活動の重要性を強く感じました。しかし、実際はチームとして取組み方がわからなく、一緒に集まる事も難しい為、中間発表まで問題をまとめる事が十分にできなかった。
- ・地域と連携をどうするか
- ・難しいと感じたことは自主ゼミの日程調整が難しかった。
- ・皆さん色々と都合があるので毎回全員が揃うことの難しさ。
- ・お互い異業種、分野がちがうため、打ち合わせの設定等に苦慮したことがありました。
- ・情報の共有は難しかったです。

○感想

- ・参加がまちまちで、意見の集約や合意形成の点で参加している人がまとめていないといけない負担があると感じました
- ・メンバーが全員、働き盛りの年代だったので、仕事の都合等で全員揃わないことが多かった。
LINE で意見交換しながらやっていましたが、揃うことは大切だなと思いました。

- ・仕事や学校の中で参加できない事もありスタッフがそろわなかったのは残念な事でした。
- ・地元の現状を把握をもう少しした方が良かった。
- ・回を重ねるごとに信頼関係ができたと思います。
- ・資料作成など役割分担にバラつきがでてだれかに大きな負担がいく時がかなりあった
- ・ファシリテーターというにはまだまだですが、会社に活かしたい。作業のウェイトが平準化しにくかった。

○欠席者

- ・企画の立て方とファシリテーションの講座を受けることは出来ませんでした。チーム活動では積極的に参加できたかなと思います。しかし、やっぱり企画の立て方という点では、中々うまくいかなかったのも、また機会があれば講義の方にも参加したいと思いました。
- ・スキルアップ講座に参加できなかったことが残念。(終了間際にかけ込み…) チーム活動をするにも、全員そろうことが少なく、(私自身も欠席もあり) 意見を出し合い議論するのが十分には行えなかったように感じる。又、チームの想いだけで企画をたてるのではなく、実態をつかんだ上で…と思っていたが、なかなかつかめずにいたため、課題に対する提案に迷いが残った。グループ内でそのおもいは共有できていないように感じる。

設問6) ぎのわん地域づくり塾のプログラムを通じて、どのような学びがありましたか。

○課題解決のスキル

- ・地域課題は時間をかけて、ていねいにひろい、掘り下げる必要性
- ・自治会のパワーバランス、事業計画をヒアリングしておくことの必要性
- ・色眼鏡で物事を見ない

○新たな繋がり（多世代、多職種）による学び

- ・幅広い年代の方と、話し合う機会はなかなか無いので経験できて良かったです。みんなの意見を否定せず、受け入れ、「それをどのように良くするか」をまた話し合うことが大切だし円滑だと思いました。
- ・他業種、多職種の方々との話し合いでそれぞれの考え方や取り組み方は学びの機会になりました。
- ・地域、年代のちがう人々と交流できたこと

○コーディネーターとしての学び

- ・問題点を掘り起こし、整理して、解決への糸口を見つける。それを「自分」がやるのではなく、地域の人々によって解決する？コーディネーターの役割はむずかしいなあと感じた。これまで仕事では「コーディネーターになるな！」「実践者であれ！」と言われ育ってきたので、一歩置いた役割はなかなか身につけていない。むずかしい・・・
- ・地域の人たちのおもいに寄りそうということ。まだできていないが、櫻井先生がインタビュー時に話をしてくれた人々の想いによりそっているか？という言葉が残っている。本質的な課題をどう見抜くか。課題と思っている人、そうでない(そこまで感じていない)人のズレにどう対応するのか。
- ・色々な方の意見を聞くことが出来た。コーデ

ィネーターとは何かも学びました。

- ・コーディネーターの役割について、講義を通して理論から学びました。
- ・コーディネーターの立ち位置や地道な話し合いが重要であること

○地域に対する気づき

- ・自分の住む地域はどうか？を考えさせられたのは大きな学びです。

○ファシリテーションに関する学び

- ・私にとって一番の収穫は多世代の方々と話し合いながら提案をまとめていく過程で学んだファシリテーションです。様々な年齢と背景を持った方々が集い、出してくる意見は本当に様々な視点があり、まとめていくことが難しいと感じました。しかし、場を重ねるごとにグループ内での意見の出し方やまとめ方をだんだんとかかめるようになりました。

○その他の学び

- ・市外から参加させていただきましたが、受け入れていただきありがとうございました。思いをもった地域の方々と意見交換したりできたこと、テーマにそって考えたことは、大きな学びとなりました。
- ・チームで活動する事の大切さ…色々な意見や提案等を聞くことで気づきや学びがあった。
- ・実践者の体験発表も充実したものでとても勉強になった。
- ・平和学習に関してはQRコード化という発想は今まで考えたことがなかった部分です。情報を伝えるという見地からはすばらしい発想と思います。

設問7) 嘉数区というフィールドから得たこと

○地域の特性

- ・地理的条件
- ・歴史的背景から保守的であるが、若い壮年世代のマンパワーに期待できる。外部団体や外部のアドバイザーとの連携がうまくいけば活性化が成功するのではないかな。
- ・公園は昔は訪れた事があったが久しく行った事がなく、昔のイメージ先行のスタートだったが、現場に何回か行く事で「今」の公園の姿が見えてきた。公園を支点にその周辺を見ると他の地域との違いが見えるような気がした。スーパーやコンビニがない嘉数区高台という立地がそうさせるのか、交通の動線のせいかな、住民構成のせいなのか？それでも豊かな印象のある地域でした。

○地域の共通点

- ・自治会の規模や地域内の施設の立ち位置、歴史との関連性、各自自治会機能の交錯する思いなど様々な情報を得て、寄り添うこと。

○嘉数区の良い点

- ・嘉数区高台公園という地域資源がうらやましい。嘉数区のみでなく、市内や県外からの地域づくり、課題を解決できる要素があるであろう。
- ・区民、区外、など多くの人が関わっているなと思った。
- ・嘉数区の魅力を知ることができました！
- ・目を向けることで今何が必要か、何ができるかを知るきっかけになった。特に嘉数区は、ハード面は恵まれていて、後はソフト面をどう

広げていくかがポイントであると思う。

○自分の住む地域への気づき

- ・嘉数区民(5年目)として嘉数区を知りたいという思いで参加しました。一部ですが、嘉数区の魅力を知り愛着がわきました。

○チームによる学び

- ・私が宜野湾市にできる活動を続けていけたらと考えます。グループの皆さんにはいろいろお世話になりました。これを機に長くお付き合いしたいです。又、私の地元読谷でもこの学びを活かして、これからがんばりたいと思います。

○地域づくりによる学び

- ・そもそも、このような地域の活性化のために集まって話し合いをする場に参加することが初めてなので、地域をより良くするため、住民が更に住みやすくなるために皆で考える場があることがすごいと思いました。他人事ではなく、自分の住んでいる地域に関心をもとうと思いました。
- ・嘉数区への想いをもちた人々がつながり、地域をよりよくしていこうと動いていることに考えさせられることがたくさんありました。
- ・目を向けることで今何が必要か、何ができるかを知るきっかけになった。特に嘉数区は、ハード面は恵まれていて、後はソフト面をどう広げていくかがポイントであると思う。

設問8) 今後、宜野湾市の地域づくりにどのように関わっていけるとと思いますか。また、コーディネーターとしてどのような活動をしたいですか。

○具体的な活動を考えている方

- ・子どもの居場所と世代間交流事業
- ・教育-福祉-市民代との連携
- ・私は、ラジオ局でお仕事をしているので、宜野湾が更に盛り上がるよう、地域が活性化するように、更に地域に目を向け、地域の人々と関わりをもち、巻き込んでいきたいと思っています。
- ・大山のターム一畑の保存にとっても興味を持っています。都市開発も大切ですが、今ある資源を生かす地域づくりに関わりたいと思っています。
- ・是非、今回グループで提案した企画を嘉数区で実現できたらと考えています。補助金活用（子どもの居場所）のご説明にお伺いさせて頂きたいです。
- ・自身の地域にも課題はいろいろあります。今後地域で子育てサロンの立ち上げや子ども会の成長を支援していきたい。
- ・大学生を地域とつなげる！という役割もあるのですが、地域をあらさず、地域の困り事に共に向き合っていけるように学生にも意識をもってもらいながら関わるような働きかけができれば。まずは、私自身が、地域の困り事に地域の方々と同じ目線で立てるように。
- ・地域の課題を考え、地域の人、外部の人を巻き

込んだ解決していくシステムづくりについてもっと考えてきたいです。

- ・仕事を通じて、地域に貢献していきたいです。
- ・まずは他の自治会の活動にも目を向けて行き、交流を増やしていく事が大切であると思うし、その事が市全体へと広がっていくと思います。
- ・「地域のこまりごと」をどの様に解決にいたるかを、これまで地域づくり塾で学んだことを手順として、建設的な提案ができるよう、皆の力で、解決に導きたいです。
- ・育成会の長としてこれまで勉強した事をフィードバックしたい。

会長職を終わっても何らかの形で地域に貢献したい。

- ・大学の講義にも同じような取り組みがあるので、そこで学んだことをいかしたいと思っています

○積極的に関わりたいと考えている方

- ・とりあえず受け身でも良いから何らかの交流の場に参加したい
- ・地域の活性化に協力したい
- ・まずは自分の地域で何が出来るかを考えていきたい。

第 5 章

総括

～第 3 期の評価と今後に向けて～

第5章 総括 ～第4期の評価と今後に向けて～

第4期を開催して感じた、良かった点や課題、次期に向けての改善点等を、運営した事務局同士で共有することを目的に「ぎのわん地域づくり塾 2019 ふりかえりミーティング」を以下の日程で開催した。本章は、ふりかえりミーティングの内容からの良かった点と課題の評価をまとめ、また、第4章に記載した塾生アンケートの内容も合わせて、次期に向けた塾プログラムの改善ポイントを提言することを目的に作成した。

（1）ふりかえりミーティング開催概要とまとめ

○日 時 令和元年 11 月 8 日（金）10:00-12:00

○会 場 嘉数区公民館 2 階

○参加者 伊波稔（嘉数区自治会）、金城美千代・我如古誉幸（宜野湾市役所）

（敬称略）前底悦子・儀間教一（宜野湾市教育委員会）

城間仁・赤嶺舞（宜野湾市社会福祉協議会）

宮道喜一・金城陽平（まちなか研究所わくわく）



○内容のまとめ

◆第4期塾生の特徴

世代、地域内外のバランスがよいグループメンバー	・ グループ分けがうまくいき、バランスがよかった ・ 塾生の世代のバランスがよかった ・ 地域の中と外のバランスもよかった ・ グループに地域の方ひとりはよい、2名だと多いと確認できた ・ 参加者は急に減るのではなく、最初から参加しない人はなかった ・ 熱い気持ちを持った人が多かった ・ 夜遅くまで自主ゼミを行ってすごい ・ グループリーダーのポテンシャル、地域の人のことを考えられてよか
-------------------------	--

	った ・ 自主的に意見を出してグループワークが進んでいた
今年度の塾生に対して留意すべきだった点	・ 子どもがいる、仕事をしている塾生からすると、土曜1日の参加は厳しい ・ チームで話し合う時間（自主ゼミ）の日にちは決めたほうがよい

◆広報について

今年度の広報手段	・ 市報ぎのわん（発行元：宜野湾市役所） ・ 宜野湾市役所、宜野湾市社会福祉協議会ホームページ ・ 宜野湾市役所企画部市民協働推進課ホームページ ・ 株式会社FM ぎのわん（毎日ラジオで案内） ・ facebook（宜野湾市、FM ぎのわん） ・ ぎのわんボラだより（発行元：宜野湾市社協） ・ 宜野湾市内の各自治会事務所 ・ 伊波会長から、嘉数区民への声掛け
広報の成果	・ 地域づくり塾が浸透しているため、単に塾を知ってもらう段階ではない ・ 市報での特集ページで、問い合わせや、地域からの質問もあった ・ 市外からの問い合わせも出てきており、広がっている ・ 来てほしい人材が来ているかはわからない ・ 広く周知する部分と、ピンポイントで集める部分が必要 ・ 課題を早めに聞いて、次の展開が進むような意図的な募集をしてもよい ・ 課題を出しすぎると、コーディネーターとしての関りが弱くなる ・ 課題まで決めると、募集がぎりぎりになってしまう ・ 嘉数区の参加者を決める時に、年齢層を広く、集めた ・ 琉大は単位にはつながらないが、小島先生の講義の中で周知 ・ FM ぎのわんを通して、市外の方からの問い合わせがあった ・ 第5回の大城氏の講座で、居場所づくりの方にも宣伝して、地域づくり塾を知った方もいた ・ サイトがあることで、シェアしやすかった
次年度への申し送り	・ 外部講師を呼ぶ際、関係者に参加を呼びかけることで、次期参加につながるのではないかと ・ アンケートで、何を聞いて、塾をしたか、参加したかを聞いた方がよい ・ 自治会も年度前の方が、年度内のスケジュールを組みやすい

◆各チームの様子

各チーム担当者からみた、チームの様子	昨年度に引き続き、各チームに事務局担当者をおいた。その役割として、講座中のワークなどのチーム活動の補助や、企画作成の進捗状況の把握等を行った。その際に、担当者が感じた各チームの印象を以下に示した。 ・ A チーム：リーダーがまとめてくれていた ・ 議論の際、書く人がおらず、色んな話が出てまとまらない ・ 議論の時は、書く人を決めるほうがいい ・ LINE グループがなかったので、連絡は取りにくかった ・ LINE を使っていない人もいたので、電話連絡だった ・ 最終発表に向けた自主ゼミはあった ・ B チーム：LINE で情報交換を行っていた ・ 企画作りなどに取り組んでいる人が偏っていた ・ C チーム：グループ編成の際に、参加が少なかったため、他チームへ分散 ・ D チーム：欠席者は必ずいたが、話し合える状況はできていた ・ 事務局の関りは深く入らず、テーマ決めのみ関わった ・ 毎回参加している嘉数区の方から、メンバーが欲しい情報は入っていた ・ 連絡は定期的にとっており、自主ゼミも行い、グループとしてよかった ・ 役割の偏りはあり、リーダーがまとめ役となっていた ・ E チーム：参加する塾生が少なく、事務局としてどう関わってよいかわからなかった ・ F チーム：メンバーの個性があったが、リーダーがまとめていた
--------------------	--

◆事務局の体制について

主催、共催について	・ 今期から教育委員会のつながりもでき、地域コーディネーターの参加もあり、広がっている ・ 琉球大学、沖縄国際大学との共催により、学生の参加があったことはよかった ・ 学校地域コーディネーターは 11 名中 2 名の参加で、参加率は思ったより低かった ・ 学生がいると雰囲気よくなる
事務局のチームへの関わり方	・ 塾生の理解が早く、事務局の関与が弱まった ・ サポートすることで、グループワークの中身が進んでほしかった ・ どうチームに関わるかの共通認識は持つ必要がある ・ どういう役割を果たすかの勉強会が必要

	・ 養成講座という認識 ・ 自治会のあり方は別の話という共通認識を持つ必要がある ・ 序盤は、道筋をつける、情報提供、参加者の役割分担の偏りの介入 ・ 連絡体制のサポート、欠席者が出たときに、次きたときのフォロー ・ チームでうまくいかないときに、事務局に伝えることをルールにする ・ 自主ゼミのフォローアップ ・ 去年から担当制で方向は見えてきている
--	--

◆講座内容・カリキュラム

各講座についての意見	・ 講座回数が減ったことで、議論の時間が減ったという評価につながった ・ ファシリテーション講座の時間が短かった ・ 今期は外部講師を2回（銘苅会長、大城喜江子氏）呼んだが、一方的な講座ではなく、塾生と講師が話し合う時間があってもよいのではないか ・ 櫻井先生からプレ発表でアドバイスをもらえたことは大きかった ・ プレ発表では、企画に傾倒していたため、櫻井先生のアドバイスでプロセスが重要だと戻してくれてよかった ・ 中間発表が1週ずれて、厳しかったが、かなり巻き返してくれた ・ 中間発表で、ワールドカフェ形式で全体のシェアする時間があつた方が良かった ・ 最終発表後の櫻井先生の総括より、公民館を開いていく、自治会加入の話など、塾生にも腑に落ちたのではないかと
次年度への申し送り	・ ファシリテーション講座は早い段階で1日かけて行ったほうがよい（第2回でもよいのではないかと） ・ ファシリテーション講座の中で、チームビルディング、チーム分けを行ってもよいのではないかと

◆講座回数、日程、会場について

講座回数、日程	・ 公開講座と第2回との間の期間が長かった ・ 講義の回数を1回減らしたことで、塾生の集まる機会が減った ・ 週末が良い、平日が良いというどちらの意見もあった ・ 事務局として、土日はプログラムを変更、調整しやすい ・ 自治会としては、行事は週末に集中することと休みがなくなるため、平日夜の実施がよい ・ 社協としても土曜日に集中すると振替などの調整が厳しい ・ 去年は講義終わりに焦らせる部分があったため、進行上では長時間確保できるとやりやすい
---------	---

	・ どの講義でも、始めの集まりが悪く、1日の日程が厳しくなる ・ 台風で中間発表が伸びたことでタイトなスケジュールになったが、時期をずらすことはきびしい
会場について	・ 開催場所が点々としている ・ 今までは公民館で講座を行っていたため、外に出てすぐ地域を確認できたが、今年はできなかった ・ 自治会が会場だと地域の方が参加しやすい ・ 最終発表が公民館でできなかったことで嘉数区の方の参加が少なかった

◆企画提案最終発表

活動の財源について	・ 助成金など具体的な提案があってよかった。全部ボランティアではなく予算があることは強み。 ・ 助成金の財源の話について、良いけど短絡的ではないか ・ 今後の自己財源にどうつなげるか ・ 庁内の財源について、各行政部内でもっている、小さい助成金、赤い羽根など、まとめてメルマガで発信する
-----------	--

◆地域づくり塾の評価と今後に向けて

地域づくり塾の評価	・ これまでの塾に関わって、人や情報がつながる場に飢えていると感じた ・ 地域づくりの場で、人がつながる場面を見ることができた ・ 人と人がつながったことは成果 ・ 人材育成の成果を図るために、エピソードをひろうことが重要
地域づくり塾の方向性について	・ 自治会を開いていくためのコーディネーター養成なのか、地域を活性化するためのコーディネーター養成なのかわからず、塾の運営が混乱しているため、何のための塾なのか切り分けて考える必要がある ・ コーディネーターがどうしていききたいとなったときに、自治会とのギャップがすごいと感じる ・ 自治会を開いていくことが難しい地域もある ・ 自治会長会でも伝えにくい ・ 自治会のあり方の話になったので、何を指すのか ・ 自治会ごとの考えもあるし、市の考えにもよる ・ コーディネーターが動きづらくなるのではないかと ・ 櫻井先生は最後、自治会の話になったと言っていたが、塾生の視点としては、自治会を資源として見ており、問題ないのではないかと ・ 自治会を開く話は、自治会長向けの勉強会などで、櫻井先生から伝える場をもったほうがいい

卒塾生、地域づくり塾の今後について	・ 4 期の塾生の修了率 68% ・ 今年が高いのか低いのか、過去の修了率を追いかけてもいい ・ 塾生を今後どう活かして、輪を大きくしていくか ・ 今後も広げていく仕組みが課題として感じている ・ 企業、市民団体を巻き込んで、コーディネーター、プレイヤーを増やしたい ・ 外に出てアウトリーチをしていく必要がある ・ 次のステージをどう作るか ・ 次のプログラムを考えるタイミングとして、塾生が 100 名を超えた、来年が 5 期目なので区切りとなるのではないか ・ 卒塾生の顔がみえなかったのでアプローチを検討する必要がある
次年度のモデル地区について	・ モデル地区を年度内に決める ・ モデル地区制でいくのか、テーマ制で行くのか ・ モデル地区では、参加者が集まらない懸念があったが、結果としては、集まっている ・ 開催時期は、大きな変更なし ・ モデル地区のエリアとして、普天間中学校区 ・ 普天間小学校区など、自治会合同でもよいのではないか

（２）塾生アンケートに記載にされていた要望一覧

本報告書の第 4 章に掲載した塾生アンケートの記載内容から、塾の運営に関わる提案や要望を以下にまとめた。

- ・ できればすべて同じ場所でやってもらいたい
- ・ 7 回の中では出来ないこと（時間が足りなくて）などもあったので、講義の中で、フィールドワークや、話し合う時間がもっと欲しいと思いました
- ・ 第 5 回目のインタビューの後、課題の実態をより理解するために、時間が必要だと感じた。グループで自主的な集まりを設定したが、時間、人数不足で深められなかったため、解決策を考えることにつなげられているのか気になる…
- ・ チーム全員が参加できる日程調整が必要と感じました
- ・ 資料作成など役割分担にバラつきがでてだれかに大きな負担がいく時がかなりあった
- ・ 具体的なスケジュールを前もって知ることができると幸いです！

(3) 次年度に向けての塾プログラムのポイント（継続・改善）の提案

本章（1）（2）の記載内容を基に、次年度に向けたプログラムのポイントを以下にまとめた。

○参加塾生の募集

- ・ モデル地区内、宜野湾市内、宜野湾市外からの参加が偏らないよう、広い周知とターゲットを定めての周知など、参加者層に配慮した募集を行う。グループに分けた際に、モデル地区内からの参加者は2名程度が望ましい。
- ・ 大学生の参加について、大学当局・教職員を通じて呼びかけを行う。
- ・ 募集する際に、モデル地区と取り上げるテーマ（地域課題）を合わせて広報することで、新たな参加の広がりができることを検討する。
- ・ 本塾のwebサイトがあることで周知しやすかったことを踏まえ、webサイトを活用する。
- ・ 外部講師の機会は公開とすることで、次期の参加につなげる。
- ・ 塾開催年度の前年度末に広報をスタートすると参加者もスケジュールを組みやすい。
- ・ 参加した塾生の参加に至った広報手段をアンケート等で把握する。
- ・ 塾生の修了率（卒塾生／当初の参加塾生）を把握し、経年変化を分析する。

○塾生が参加しやすい講座日や時間の検討

- ・ 休日（土日祝日）の講座は長時間となるため参加しづらいとの声がある。休日の講座6時間を2回に分けて行う等、講座回数を増やすことと、講座の回数、開講曜日（平日・休日）、開講期間のバランスを再度検討する。
- ・ 公開講座と第2回講座までの期間を長すぎないように調整する。
- ・ 毎年度、台風の影響を受けるため、予備日は必ず設定する。

○チーム内の関係づくりや連絡手段の工夫

- ・ チーム内の連絡手段を整えることが、チームメンバーの関係づくりや講座の出席率、その後の自主活動の有無に大きく関係してくると思われる。その為、チーム内の関係づくりに時間を割くことや、連絡手段を整えることを検討する。

○本プログラム目標と事務局の役割の共通認識を得る

- ・ 複数の主体による協働事務局体制のため、本プログラムの目標や基礎知識、事務局の役割等について共通認識を持つための機会を検討する。
- ・ 事務局の各チーム担当制は継続する。チーム担当者は、以下に留意しながら伴走し、必要に応じて介入する。
 - ◇ 塾生同士が連絡を取りあえているか
 - ◇ 話し合えているか
 - ◇ 出席できているか
 - ◇ チーム内の情報格差が生まれていないか
 - ◇ 自治会と公民館の機能についての基礎的な理解ができているか
 - ◇ 個々の塾生の目的・目標とチームの取り組む内容が大きくずれていないか
 - ◇ 企画提案に向けて適切な問題設定・企画・実施に向けたプロセスを検討できているか

○学び、調べ、話し合い、企画する講座カリキュラム

- ・ チームで話し合うゼミの日程は自主的に集まるものだけでなく、各チーム共通で同じ時間に行う日時を指定することも検討する。
- ・ ファシリテーションの講座は早いプログラムの早い段階で1日かけて行うこと、その際、チーム分けとチームビルディングを組み込むことも検討する。
- ・ 外部講師について、一方向的な伝達だけでなく、講師と塾生が意見交換することも検討する。
- ・ 企画の内容（何を行うか）だけでなく、そのプロセスが重要であることをカリキュラム後半で確認する機会が重要となる。

○チームの企画がより良くなるための工夫

【チームで取り組む課題を柔軟に考えられるようにする工夫】

- ・ 自治会長に提示いただいた「地域の困りごと」から選んだテーマは、「途中で変えてはいけない」と思っていた塾生もいたため、議論していく中でチームとして納得できる地域の課題にたどり着けば、テーマを変えても良いことを、しっかりと塾生に伝えるようにする。
- ・ 各チーム、課題設定の共通認識を取るのに時間がかかっていたため、過去の最終発表資料を配布する等、課題設定の例示方法を検討する。

【企画に対する「批判的目線」と「承認体験」の検討】

- ・ 中間発表までに、チームで設定した課題設定に疑問を問われる体験と、中間発表で企画の方向性に承認を受ける体験が最終発表の質に関わるため、卒塾生に企画に対して質問をする役目を担ってもらえるように検討する。

○最終発表に対する反応の共有方法を検討

- ・ 最終発表での各チームの発表内容に対する感想・意見・質問等の反応をフィードバックできる方法を検討する。

○卒塾生のその後の活躍のフォローと塾プログラムへの参加

- ・ 100名を超えた卒塾メンバーのその後の活躍のフォローアップ・情報発信や塾プログラムへの参加の機会づくり。

○次年度のモデル地区

- ・ 小学校区内の隣り合う2～3自治会をモデル地区として開催することを検討する。
- ・ 自治会の総会で、「地域づくり塾の開催」を事業計画に組み込んでもらうように、前年度中にモデル地区を決定する。
- ・ 普天間中学校区、普天間小学校区など普天間エリアでのモデル地区候補を検討・調整する。一自治会だけでなく、隣接する複数自治会でのモデル地区指定も検討する。

令和元年度 地域コーディネーター養成講座

ぎのわん地域づくり塾 2019 報告書

令和元年（2020 年）3 月

発 行 宜野湾市 企画部 市民協働推進課
社会福祉法人 宜野湾市社会福祉協議会

作成・編集 特定非営利活動法人まちなか研究所わくわく
〒902-0065 沖縄県那覇市壺屋 1 丁目 7-5 民衆ビル 4 階
TEL : 098-861-1469